

第42回 上海博楚簡研究会のご案内

※ 本研究会は、「出土資料と漢字文化研究会」(平成21年度科学研究費補助金(基盤研究(B))
定例研究会との共催です。

『鄭子家喪』・『武王踐阼』を読む

発表者(報告順):小寺敦准教授(東京大学)
名和敏光准教授(山梨県立大学)

馬承源主編『上海博物館蔵戦国楚竹書』(上海古籍出版社、定価600元)の第7冊が2008年12月に出版されました。以来同書に収録された竹簡の内容は、古代中国の哲学・歴史・語学文学など、関係する分野を問わず、多くの研究者から注目を集めています。今回は同書書影所収の『鄭子家喪』x・E『武王踐阼』xを取説

さて、『鄭子家喪』は甲本・乙本の2種類があり、それぞれ7枚の竹簡からなります。篇題に含まれる鄭の子家は、『左伝』・『史記』にも現れる人物であり、本篇は彼の存在を軸に、楚の荘王が中心人物となり、鄭・楚・晋の国際関係を描いた説話になっています。また、『武王踐阼』xはA竹簡1P5T枚から纏なネリ閨、Aそサのノ内燉容eがE『wとされました。本篇に関する最古の文献として注目を集めているようです。

第42回目を迎えた今回の研究会は、小寺敦氏(東京大学)・名和敏光氏(山梨県立大学)が担当し、最新の情報を盛り込んだ訳注を発表します。つきましてはご多忙中恐れ入りますが、下記の要領で開催いたしますので、ご関心をお持ちの方々多数お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

なお今回は諸般の事情により、開催日・報告内容を急遽変更いたしました。ここに伏してお詫び申し上げますと共に、皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

日時：2009年7月25日(土)午後2時～午後5時

場所：東京大学文学部219番教室(法文1号館2階)

- 使用言語 日本語
- 参加費 無料
- 『上海博物館蔵戦国楚竹書』(七)の写真図版や釈文のコピーなどは、各自ご用意下さい。

連絡先：

東京都板橋区高島平1-9-1 大東文化大学文学部中国学科
電話：03-3935-1113(内線3215) 池田知久